

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地				
日本電子専門学校		昭和51年9月10日		杉浦 敦司		〒 169-8522 (住所) 東京都新宿区百人町一丁目25番4号 (電話) 03-3363-7761				
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地				
学校法人電子学園		昭和38年12月17日		多 忠貴		〒 169-8522 (住所) 東京都新宿区百人町一丁目25番4号 (電話) 03-3363-7761				
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度				
工業	工業専門課程	AIシステム科		平成30(2018)年度	-	令和 2(2020)年度				
学科の目的		機械学習を中心としたAIプログラミング技術およびビッグデータ技術、IoT活用技術に関して実践的な知識と技術を有したエンジニアを育成することを目的とする。								
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)		<p>【取得可能な資格】 オラクル認定Javaプログラマ/Python3エンジニア認定/統計検定/日本ディープラーニング協会 G検定/データサイエンティスト検定/AI検定</p> <p>【在学の状況】 令和6年4月1日時点において、在学者170名(令和6年4月1日入学者を含む) 令和7年3月31日時点において、在学者156名(令和7年3月31日卒業者を含む)</p>								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技		
2	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 1,710 単位時間		540 単位時間	0 単位時間	1,290 単位時間	0 単位時間	0 単位時間		
生徒総定員	生徒実員(A)	留學生数(生徒実員の内数)(B)		留學生割合(B/A)	中退率					
140人	164人	79人		48%	8%					
就職等の状況	■卒業生数(C)		76人							
	■就職希望者数(D)		69人							
	■就職者数(E)		69人							
	■地元就職者数(F)		69人							
	■就職率(E/D)		100%							
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		100%							
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		91%							
	■進学者数		5人							
	■その他									
	就職指導の体制は、キャリアセンターが、業界の求人獲得に努め、合同企業説明会や校内入社試験を実施している。各クラス担当のキャリアサポーターとクラス担任を中心とした、組織的な学生指導体制による就職指導を行っている。 (令和6年度卒業者に関する令和7年5月1日時点の情報)									
第三者による学校評価		民間の評価機関等から第三者評価:有 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 特定非営利活動法人 職業教育評価機構 受審年月: 令和5年3月31日 評価結果を掲載したホームページURL: <a href="https://www.jec.ac.jp/school-outline/disclose/third-party-evaluation/">https://www.jec.ac.jp/school-outline/disclose/third-party-evaluation/</a>								
当該学科のホームページURL		<a href="https://www.jec.ac.jp/course/ai/ca/">https://www.jec.ac.jp/course/ai/ca/</a>								
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)									
	総授業時数		1,830 単位時間							
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		390 単位時間							
	うち企業等と連携した演習の授業時数		0 単位時間							
	うち必修授業時数		1,710 単位時間							
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		390 単位時間							
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		0 単位時間							
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位時間							
	(B: 単位数による算定)									
	総授業時数		単位							
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		単位								
うち企業等と連携した演習の授業時数		単位								
うち必修授業時数		単位								
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		単位								
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		単位								
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		単位								
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		1人							
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		0人							
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0人							
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		3人							
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		0人							
	計		4人							
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		2人								

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員会は、卒業生の就業先の業界における人材の専門性に関する動向、国または地域の産業振興の方向性、新産業の成長に伴い新たに必要となる実務に関する知識、技術、技能などを十分に把握、分析した上で、本校の専門課程の教育を施すにふさわしい授業科目の開設または授業内容・方法の改善・工夫等を行うなど、専攻分野に関する企業、関係施設、関係団体等の要請等を十分に活かしつつ実践的かつ専門的な職業教育を主体的に実施するための検討課題を協議・検討することを基本方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育の管理部署(教育部、教務部)と各学科に対して中立的な位置付けとし、実践的な教育を行うために、経営や教育現場からの制約を受けない自由な検討が行えるものとする。

尚、教育課程の編成については、以下の過程に基づいて決定する。

- ① 学科教員により、今後の教育課程について検討し改善案を作成する。
- ② 教育課程編成委員会にて、学科からの改善案について各委員の専門的知見に基づく意見を伺う。
- ③ 教育課程編成委員会での意見を踏まえ、学科長及び教育部長を中心に最終案を作成し、校長の決済で決定する。
- ④ 次の教育課程編成委員会にて、最終決定した教育課程を各委員へ報告する。

上記の教育課程を決定する過程については、学校関係者評価委員会においても報告・評価の対象とする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
満岡 秀一	一般社団法人 IT職業能力支援機構	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	①
古川 武利	富士インフォックス・ネット株式会社 業務ソリューション部 課長	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	③
杉浦 敦司	日本電子専門学校 校長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	
大川 晃一	日本電子専門学校 エンジニア教育 部長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	
高橋 陽介	日本電子専門学校 学事部 部長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	
井上 直樹	日本電子専門学校 キャリアセンター センター長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	
福田 竜郎	日本電子専門学校 AIシステム科 学科長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

委員会は、原則として学期の切り替え時期(9月)及び、年度末(3月)の年2回は、必ず開催する。また、業界動向の変化や学科の状況等により、必要性に応じて適宜開催する。

(開催日時(実績))

第1回 令和6年9月3日 10:00～12:00 開催

第2回 令和7年3月11日 10:00～12:00 開催

## (5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

### 【議題1】

2年次科目エッジコンピューティングⅠ・Ⅱについて

現行のAIシステム科のカリキュラムでは、2年次前期に「エッジコンピューティングⅠ」(週1駒)、2年次後期に「エッジコンピューティングⅡ」(週1駒)を設置している。エッジコンピューティングⅠ・Ⅱでは1年間をかけてLinuxの基本操作から始まり、Raspberry Piを用いたカメラデータの収集やGPIO制御などについて学ぶ。AIシステム科の設置当初(2018年)のカリキュラムでは、AI、ビッグデータ、IoTを2年間で学べるという点が売りであったが、最近の学生にとっては学習するトピックが多く消化不良気味になっている。学生が消化できる学習量を考えた結果、AI、ビッグデータ、IoT技術のうちカリキュラムから削るのはIoT技術が良いのではないのかという検討をしている。エッジコンピューティングⅠ・Ⅱをカリキュラムから削除し、AI関連の授業内容を手厚くすることを考えているが、IoT関連の科目の廃止が妥当かどうかのご意見を頂ければと思います。

### 【意見】

- ・一かゼロかであればいい。業務においてLinuxを使う機会はあるので、Linuxを勉強する機会があるとよい。
- ・エッジコンピューティングという科目はなくともいいのでは。学科の育成人材像およびカリキュラムをみると、学生は他の科目と離れた感じがする。
- ・エッジコンピューティングに対する知識はもはやいらなくなっている。コモディティ化しているので、この授業はやらないほうがいいと思う。2年間の限られた時間で、実際の職業につなげるのであれば、他の授業をやったほうがいい。アカデミック方面は専門学生ではきついで、AI・機械学習の新しいサービスを組み合わせて違うものを作れる人、複数のライブラリを組み合わせる新しいものを作ることが出来るような授業はどうか。

### 【活用】

委員の方々のご意見を踏まえ、2026年度のカリキュラムではエッジコンピューティングⅠ・Ⅱの2科目を無くし、その科目の授業時間をシステム開発系の科目に割り当てた。

### 【議題2】

生成AI活用の時代におけるエンジニアに求められるスキルについて

AIシステム科の現行のカリキュラムの幾つかの科目(「卒業研究」「統計学Ⅰ・Ⅱ」「ITストラテジ」など)における提出課題レポート、また就職活動の提出書類(履歴書、エントリーシート、など)において文章を作成する機会がある。ここ2年間でChatGPTやCopilotなどの生成AIの性能が高くなったこともあり、ほとんどの学生が生成AIを活用して作文を行っている。文法や内容に問題は無いが、課題の内容を超えた・ずれた文章が含まれていることが散見されることや、実際に面接練習を行ったときに記入されている内容と本人の考えとの間にギャップを感じる事が多々あり、自身の知識・考えおよび外部の知識・考えを咀嚼して自身のロジックを組み立てていく力が弱くなっていると感じている。また、これが原因なのかは厳密にはわからないが、現2年生の就職指導は非常に苦労したという現状もある。このような状況を踏まえ、委員の皆様には研修や開発現場など生成AI活用の時代におけるエンジニアに求められる・求められるであろうスキルがあればご教示頂ければと思います。特に、作文技術関連については、必要性が高ければ、放課後にトライアルを行ったのちに既存科目(例えば「就職活動リテラシー」や「コンピュータリテラシー」など)に組み込むことを検討している。

### 【意見】

- ・生成AIの活用と合わせて、情報流出、知的財産権などに関する指導は必要である。
- ・AIから生成される文章を基に、注目すべき単語を見つけて、さらに自分で調べて理解を深めていくような使い方が望ましいと考えている。
- ・学校を、知識を蓄える場として捉えるのであれば、人が介在し学生を評価することは必要である。生成AIを使用するのは構わないが、それを評価するのは人が行わなければならないと思う。
- ・学校では知識の有無が重視されるが、企業ではゴールの達成、クオリティ、時間が重要であるため、生成AIの使用も問題ない。しかし、保守性やメンテナンス性を考慮すると、人によるコードレビューが不可欠であり、その際にコードの内容を説明できなければ業務に支障が出る。この点は、学生にきちんと伝えるべきである。

### 【活用】

学園生活ガイドのAI活用ポリシーを踏まえてAIシステム科における活用についての説明を授業前準備期間に設けた。

## 2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

### (1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

AI技術およびビッグデータ技術を有したAIエンジニアを育成するため、AIシステム開発企業と連携し、Pythonを使ったAIプログラミング技術やAIシステムの最新動向に関わる指導を受け、最新のAI技術を身に付けることを基本方針とする。

### (2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

AIシステム開発に携わっている現役のAIエンジニアより、PythonによるAIシステム開発の構築手法及びビッグデータの活用方法について学び、卒業研究に向けたAIシステムのアイデアを出し合うグループワークを行う。各グループには今日におけるAIシステム開発に有効な技術・知識の習得を目指す。また、作成した企画書を通して指導を行い、最後は評価を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
データマイニング	2. 【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当 ビジネスデータの統計解析手法について学びます。解析手法としては、相関分析、回帰分析、頻出パターン抽出などについて学びます。	テクノブレイブ株式会社
Java I	2. 【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当 Javaによるプログラム作成から実行までの手順、Javaの基本文法(変数、各種演算子、フロー制御、配列、クラス・インターフェイス、継承、パッケージ、例外)について学びます。	テクノブレイブ株式会社
AIプログラミング I	2. 【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当 Python基本文法、代表的な標準ライブラリ、AIプログラミングの基本となる外部ライブラリ(NumPy、Matplotlib、SciPyなど)の基本事項について学びます。	テクノブレイブ株式会社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

学校関係者評価委員会の分野別分科会、ならびに教育課程編成委員会の意見や検討内容の他、AIシステム開発業界の動向をもとに、現在教員に不足している知識、技術、技能に関する研修や、教育的資質に関する研修を研修規定に則って実施する。現在は、AIシステム開発業界ならびにITに特化した企業が主催する研修に参加しているが、今後はAIシステム開発企業や団体から講師を招き、最新の技術・知識を習得するための研修を計画・受講し、授業への展開やオリジナル教材等にも反映させることを基本方針とする。

(2) 研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	独学で身につけるGAS(Google Apps Script)～基礎編～ 【業務効率化・自動化で残業を無くそう!】	連携企業等:	株式会社ベネッセコーポレーション
期間:	令和6年8月22～30日	対象:	学科教員
内容:	Google Apps Script(GAS)をマスターして毎日の業務(Google Workspace,G Suite,gmail、google スプレッドシート,google form)を自動化させよう。		
研修名:	G検定対策	連携企業等:	株式会社ベネッセコーポレーション
期間:	令和7年3月5日	対象:	学科教員
内容:	本講座は、G検定を受験する方向けの模擬試験になっています。重要度の高い問題を厳選した内容になっています。全ての問題を解くことで、G検定に必要な基本的な幅広い知識を身につけることができます。		
研修名:	Kaggleで始めるPython AI機械学習入門コース	連携企業等:	株式会社ベネッセコーポレーション
期間:	令和7年3月17～19日	対象:	学科教員
内容:	現役データサイエンティスト兼セミナー講師が作成した「Pythonによる機械学習プログラミング」の講座です。初めて学ぶ方を対象に、一から必要なことを丁寧に紹介します。基礎を学んだ後に「自発的に踏み出せるようになる」ことが講座のゴールです		
研修名:	Microsoft Azure Virtual Training Day: データの基礎	連携企業等:	株式会社ベネッセコーポレーション
期間:	令和7年3月20～21日	対象:	学科教員
内容:	大規模なデータレイクハウスやウェアハウス、リアルタイム分析、データ可視化の利点について解説します。Azure Databricks、Microsoft Fabric、OneLakeなどのインテリジェントなデータプラットフォームを使用してデータを統合する方法を学習について説明します。データ戦略をより効率的かつ協調的で、インサイトに満ちたものにするための知識を習得できます。		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	「教授法研修」	連携企業等:	株式会社ビーフォーシー
期間:	令和6年8月7・9日	対象:	新人教員
内容	教授する際に必要なスキル項目に沿って、対人スキルとして「話法」のスキルを身に付け、教授法の重要性を理解する。		
研修名:	「インストラクショナルデザイン研修」	連携企業等:	株式会社ウチダ人材開発センタ
期間:	令和6年8月20日	対象:	新人教員
内容	授業を実施する上で、その前提となる授業設計等に関する知識を体系的に学ぶ。科目内容の見直しやシラバス作成における授業設計に関する知識技能を修得する。		
研修名:	「中退者を出さない基盤づくりノウハウ」	連携企業等:	株式会社Weness
期間:	令和6年8月29日	対象:	全教員
内容	『教員が疲弊しない』中退防止法を考察する。		
研修名:	「高校生を取り巻く入試環境とこれからの入学生に求められる学生指導とは」	連携企業等:	専門学校コンソーシアムTokyo
期間:	令和6年9月19日	対象:	全教員
内容	データから見る入試環境と専門学校進学者層への影響と新入生の実態と効果的な指導を理解する。		
研修名:	学校における合理的配慮	連携企業等:	東京私学財団
期間:	令和6年12月23日	対象:	学科教員
内容	令和6年4月から私立学校においても合理的配慮の提供が義務化され、今後は更なる対応が求められます。合理的配慮の提供は、皆と同じことを強いるのではなく、自分らしく学ぶことを促す人権尊重の第一歩になります。学校が対応すべき事項について事例などを交えて学び、全ての生徒にとって個に応じた学びが保障される環境を工夫できるよう理解と技術を向上させることを目指して、早稲田大学大学院教育学研究科 教授 高橋あつ子 氏をお迎えしご講演いただきます。		

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	ChatGPTのAPIで5つのアプリを作ってみよう	連携企業等:	株式会社ベネッセコーポレーション
期間:	令和7年8月1日	対象:	学科教員
内容	このコースは、LLM のチャットボット以外の応用例を知り、受講者の方が自分なりのアイデアに繋げることを目標としています。		
研修名:	Azureで作るOpenAIチャットシステム開発	連携企業等:	株式会社ベネッセコーポレーション
期間:	令和7年8月20日	対象:	学科教員
内容	本コースでは、Azureを活用した社内向けチャットシステム開発方法を習得し、実際の業務に適したデータの活用スキルを磨くことができます。		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	「教授法研修」	連携企業等:	株式会社ビーフォーシー
期間:	令和7年8月20・22日	対象:	新人教員
内容	教授する際に必要なスキル項目に沿って、対人スキルとして「話法」のスキルを身に付け、教授法の重要性を理解する。		
研修名:	「インストラクショナルデザイン研修」	連携企業等:	株式会社ウチダ人材開発センタ
期間:	令和7年8月8日	対象:	新人教員
内容	授業を実施する上で、その前提となる授業設計等に関する知識を体系的に学ぶ。科目内容の見直しやシラバス作成における授業設計に関する知識技能を修得する。		
研修名:	「卒業生調査の分析結果」	連携企業等:	株式会社応用社会心理学研究所
期間:	令和7年8月28日	対象:	全教職員
内容	卒業生調査の分析結果から、本校の課題を明らかにすると共に対策を検討する。		
研修名:	学校教育法等の改正に伴う各専修学校における対応	連携企業等:	専門学校コンソーシアムTokyo
期間:	令和7年9月18日	対象:	全教職員
内容	令和8年4月施行の学校教育法の改正ポイントを理解する。		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校では、卒業生、保護者、高等学校教員、地域住民等とともに、ICT企業を評価委員として、学校関係者評価委員会(以下、評価委員会という。)を組織する。評価委員会では、本校の自己評価報告書にもとづき、学校の運営状況やAIシステム科の教育状況、目標達成度、進路の状況、卒業生の産業界での活躍等、教育活動に関する自己評価結果を報告する。評価委員より、自己評価結果の評価を受け、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、AIシステム科への理解促進や連携協力による今後の運営や教育の改善等を図ることを基本方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	理念・目的・育人人材像の周知、職業教育の特色、将来構想、学科教育目標
(2) 学校運営	運営方針、事業計画、組織・意思決定機能、人事規程、教育活動の成果公開、情報システム化
(3) 教育活動	教育目標・育人人材像、教育達成レベル、実践的なカリキュラム、業界関連科目目標、キャリア教育、授業評価、職業教育、教員確保・育成、成績・単位基準、資格指導体制
(4) 学修成果	就職率、資格取得、ドロップアウト対策、卒業生・在校生の活躍、キャリア形成と教育改善
(5) 学生支援	就職指導体制、学生相談体制、学費支援体制、学生生活・健康管理、課外活動支援、父母会、卒業生支援、関連分野と業界関係
(6) 教育環境	施設設備環境の維持・向上、学外実習・インターンシップ・海外研修体制、防災訓練
(7) 学生の受け入れ募集	学生募集活動、教育成果の公表、入学選考、学納金、資格・就職情報公開
(8) 財務	中・長期財務計画、予算・決算・収支計画、定期的な会計監査、事業(財務)情報公開
(9) 法令等の遵守	法令・設置基準の遵守、個人情報保護、自己点検・評価、自己評価・第三者評価の公開
(10) 社会貢献・地域貢献	学校施設の教育資源の貢献、学生ボランティア活動支援
(11) 国際交流	留学生の受け入れ戦略、留学生の在籍管理と手続き、留学生の学修・生活支援体制、学習成果の発表

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

コロナ禍後に退学率が上昇したことに対して、組織的な対応の必要性について意見を頂いた。コロナ禍により日常のコミュニケーション機会が失われたことが理由の一つと考えられることから、令和6年度は次の取組みを行った。

外部講師を招き、「中退者を出さない基盤づくりノウハウ」というテーマで、組織的な学生対応に関する全体研修会を実施した。また、キャリアセンターを中心に個別対応の充実を図り、個別面談の機会を増やす取組みを行った。結果として、前年よりも学校全体の退学率の低減に繋げることができた。

## (4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和7年5月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
鈴木 周祐	株式会社スタジオぴえろ	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	企業
後藤 宗亮	株式会社ファンコーポレーション	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	企業
木下 幸弘	株式会社ジェイスリー	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	企業
渡邊 登	合同会社ワタナベ技研	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	企業
佐々木 伸彦	ストーンビートセキュリティ株式会社	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	企業
伊藤 好宏	JTP株式会社	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	企業
舟山 大器	一般社団法人 日本PVプランナー協会	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	職能団体
宮内 舞	CG-ARTS 公益財団法人画像情報教育振興協会	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	職能団体
満岡 秀一	一般社団法人 IT職業能力支援機構	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	職能団体
中野 正	一般社団法人ソフトウェア協会	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	職能団体
米井 翔	一般社団法人組込みシステム技術協会	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	職能団体
西郷 直紀	東京商工会議所新宿支部	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	職能団体
品田 健	聖徳学園中学・高等学校	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	高校教員等
横田 えりか	株式会社ウィザス	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	高校教員等
亀田 亜矢子	東京ギャラクシー日本語学校	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	日本語学校
谷 伸城	株式会社アプリケーションプロダクト	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	卒業生
大曾根 良孝		令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	卒業生
原田 識義	百人町西町会	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	地域住民
高橋 美登里		令和5年5月1日～ 令和8年3月31日(3年)	父母
岸本 美香		令和5年5月1日～ 令和8年3月31日(3年)	父母
岡本 忠司		令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	父母
田野 滋子		令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	父母
森 清子		令和7年4月1日～ 令和10年3月31日(3年)	父母
下園 紗月		令和6年4月1日～ 令和9年3月31日(3年)	在学生
森下 晴紀		令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	在学生
岩永 礼矢		令和6年4月1日～ 令和9年3月31日(3年)	在学生
伊藤 凜		令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	在学生
小倉 昊太郎		令和7年4月1日～ 令和10年3月31日(3年)	在学生
葛巻 沙織		令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	在学生
埜村 萌花		令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	在学生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

## (5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: <https://www.jec.ac.jp/school-outline/disclose/stakeholder-assessment/>

公表時期: 毎年10月1日に更新



授業科目等の概要

(工業専門課程 AIシステム科) 令和7年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			コンピュータリテラシー	コンピュータの基本的知識について学びます。具体的には、コンピュータアーキテクチャと各種装置の役割、オペレーティングシステムの基本機能について学びます。	1前	60			○	○			○	
2	○			ソフトウェア工学概論	ソフトウェア工学の基礎について学びます。具体的には、共通フレームの役割、SLCPとそのモデル、各プロセスの基本アクション、ソフトウェアの品質について学びます。	1後	30	○			○			○	
3	○			ITストラテジ	企業に関する基礎知識およびシステム戦略における情報戦略について学びます。具体的には、企業活動と法務、経営戦略と技術戦略、システム戦略について学びます。	2前	30	○			○			○	
4	○			HTML&CSS	マークアップ言語の歴史と発展を踏まえた上で、最も基本的なWebページ表現技術であるHTMLとCSS3の文法について学びます。合わせて、CSSフレームワークを用いたWebサイトの構築方法についても学びます。	1前	60			○	○		○		
5	○			Java I	Javaによるプログラム作成から実行までの手順、Javaの基本文法（変数、各種演算子、フロー制御、配列、クラス・インターフェイス、継承、パッケージ、例外）について学びます。	1前	210	△		○	○		○	○	
6	○			Java II	Java APIに含まれる主要なライブラリの用途と使用方法について学びます。具体的には、基本パッケージ、ファイル入出力、ストリーム、ラムダ式などについて扱います。	1後	60	△		○	○		○		
7	○			クライアントサイドプログラミング I	クライアントサイドプログラミング技術としてJavaScriptを取りあげ、JavaScriptの基本文法からクライアントサイドの実装方法について学びます。	1後	30			○	○		○		
8	○			クライアントサイドプログラミング II	JavaScriptの各種フレームワーク／ライブラリを用いたWebアプリケーションのクライアントサイドの実装方法について学びます。合わせて、Canvas API、DOMプログラミング、JSONデータの取り扱い方法についても学びます。	2前	60	△		○	○		○		
9	○			サーバーサイドプログラミング I	サーバサイドプログラミング技術としてJava EEを取りあげ、Webアプリケーション実装の基礎について学びます。具体的には、サーブレット・JSPの作成方法、配備方法について学びます。	1後	60	△		○	○		○		

10	○		サーバーサイドプログラミングⅡ	サーバサイドプログラミング技術としてJava EEを取りあげ、永続化システムの必要性とその利用方法まで扱います。具体的には、JDBCの役割、JDBC API、DAOの役割について学びます。	2前	30				○	○	○					
11	○		データベースⅠ	データとモデルの関係、RDBMSの一般的なアーキテクチャ、主要なRDBMSの特徴を踏まえた上で、SQLによる基本演算（射影、選択、結合）について学びます。	1前	60		△		○	○		○				
12	○		データベースⅡ	SQLによる副問い合わせ、トランザクション制御、DDLについて学びます。更に、リレーショナルモデルと半構造化モデルを対比させながら、各種データのモデルについても学びます。	1後	30				○	○			○			
13	○		オブジェクト指向分析・設計Ⅰ	ソフトウェアのライフサイクルおよびソフトウェア開発プロセスモデルを確認した上で、ロバストネス分析、ICONIXプロセスについて学びます。合わせて、ロバストネス図やUMLについても学びます。	2前	30		○			○			○			
14	○		オブジェクト指向分析・設計Ⅱ	オブジェクト指向設計の原則を軸にソフトウェアパターン（アーキテクチャパターン、デザインパターン、実装パターン）について学びます。また、Spring Framework、Hibernateを利用し、依存性注入、O/Rマッピングについて学びます。	2後	60		△		○	○			○			
15	○		人工知能概論	人工知能の歴史と発展を確認しながら、人工知能が対象としてきた問題領域、問題解決とその手法、フレーム問題、人工知能とビッグデータやIoTとの関係、各産業への利用事例について学びます。	1前	30		○			○			○			
16	○		人工知能特論	人工知能を取り巻く最新の動向について学びます。例えば、最新の機械学習の理論、人工知能の活用事例、GPUなどのハードウェアの話題、などを取り上げます。	2後	30		○			○			○			
17	○		AIプログラミングⅠ	Python基本文法、代表的な標準ライブラリ、AIプログラミングの基本となる外部ライブラリ（NumPy、Matplotlib、SciPyなど）の基本事項について学びます。	1後	120		△		○	○			○			○
18	○		AIプログラミングⅡ	代表的な外部ライブラリ・API（TensorFlow、Keras、scikit-learnなど）を使用して、人工ニューラルネットワークの実装、学習に関するテクニックについて学びます。	2前	120		△		○	○			○			
19	○		AIセキュリティ	情報セキュリティを維持するための基本技術（暗号化、電子署名、電子証明書など）について学びます。合わせて、人工知能を利用した情報セキュリティの脅威についても学びます。	2後	30		○			○						○
20	○		機械学習Ⅰ	現在の機械学習で有効な人工ニューラルネットワークについて学びます。パーセプトロンと学習手法をベースにして、多層ニューラルネットワーク、畳み込みニューラルネットワークなどについて学びます。	1後	60		○		△	○			○			

21	○		機械学習Ⅱ	教師あり学習のうち分類問題を取りあげ、分類決定木、ナイーブベイズ、サポートベクターマシンの基本構造、最適化方法について学びます。	2 前	60		○		△	○	○					
22	○		機械学習Ⅲ	教師なし学習の代表的な問題設定であるクラスタリングと次元削減について学びます。クラスタリングの手法としてk-means法と混合正規分布、次元削減の手法として主成分分析について学びます。	2 後	60		○		△	○	○					
23	○		エッジコンピューティングⅠ	今日におけるIoTシステムの構成を踏まえた上で、IoTデバイスの設定やセンシングしたデータの送受信方法について学びます。	2 前	30					○	○	○				
24	○		エッジコンピューティングⅡ	センシングしたデータを収集・処理するプログラミングについて学びます。IoTデバイスを活用したシステムの開発演習を行います。	2 後	30					○	○	○				
25	○		クラウドコンピューティング	クラウドとは何かおよびクラウドの構成を踏まえた上で、クラウドサービスを利用した環境構築の方法、代表的な機械学習アルゴリズムの利用方法、AIシステムへの活用方法について学びます。	2 後	30		○				○	○				
26		○	クラウドプログラミング	クラウドベースのGoogle Apps Script(GAS)により、GoogleサービスGmailやスプレッドシートなどの自動化処理および外部サービスとの連携方法について学びます。	2 前	30					○	○	○				
27	○		卒業研究	2年間の集大成として各自・各グループでテーマを設定し、研究・制作活動を行います。卒業論文を提出し、プレゼンテーションを行います。	2 後	150			△		○	○	○				
28	○		統計学Ⅰ	統計学の歴史と発展および基礎数学を踏まえた上で、記述統計学について学びます。低次元データを用いながら、データを可視化する各グラフ、各種代表値の定義と意味、確率論の基礎について学びます。	1 前	30		○				○	○				
29	○		統計学Ⅱ	推測統計学について学びます。具体的には、大数の法則、中心極限定理、母集団とサンプリング、推定、検定について学びます。	1 後	30		○				○	○				
30	○		データマイニング	ビジネスデータの統計解析手法について学びます。解析手法としては、相関分析、回帰分析、頻出パターン抽出などについて学びます。	2 前	60		△			○	○	○	○			
31		○	データサイエンスⅠ	データサイエンスの役割や領域を踏まえた上で、記述統計学によるデータの把握と比較方法、相関関係などの2変数の関係や時系列データの解釈、ビジネスにおける予測と分析結果の報告について学びます。	1 後	30		○				○	○	○			
32		○	データサイエンスⅡ	Kaggleなどに代表されるサービスを利用し、より実践的なデータ前処理および各種分析手法について学びます。	2 前	30		○				○	○	○			

33		○	Office入門	Microsoft Office (Word、Excel、PowerPoint)の基本的な使い方について学びます。	1 前	30				○	○			○
34	○		就職活動リテラシー	就職活動の過程で避けて通ることができない書類審査や面接に備え、IT業界全体の構造・職種・業務内容およびその他必要な事前準備（エントリーシート・履歴書の作成）について学びます。	1 後	30		○			○		○	
合計					34	科目	1830 単位（単位時間）							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 試験、提出課題、平常点を加味した成績評価において、全ての科目で「可」以上		1学年の学期区分	2期
履修方法： 学科・クラス毎に定められた時間割に則って履修する。		1学期の授業期間	15週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。